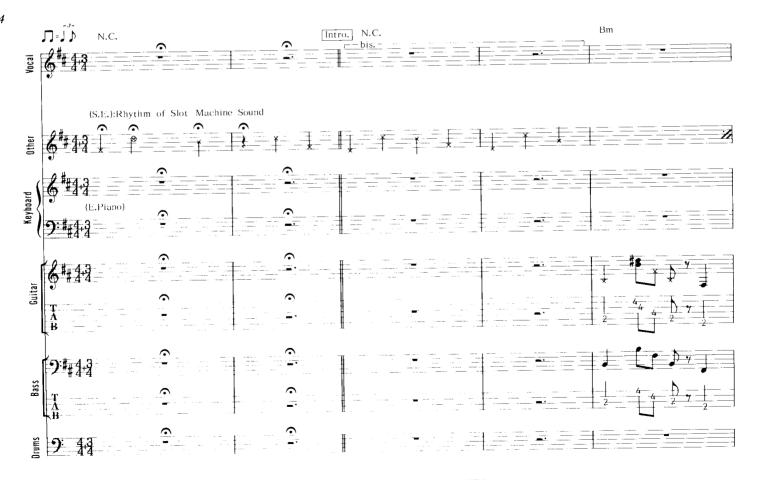
MONEY

Words & Music by Roger Waters

アルバム「狂気」からのナンバー。冒頭のスロット・マシンの音のリ スムは、原曲ではテープを切り貼りして作ったモノだ(正確なリズムを 刻むように定規でテープの長さを測ってやったそうだ)。しかし、今日 ではサンプラーを用いれば、簡単に同様のことが出来る。この曲は、ち ょっと変則的なブルースだ。ブルーノートを多用したフレージングとか、 ハネるリズムのノリ方とか、プレイのフィーリングはブルースの感じで いいわけだ。しかし何と言っても拍子が変則的で、7拍子(諸面では 4/4拍子+3/4拍子という2小節で7拍子となる記し方をした)と いう実に半端なモノ。まずはリズムを身体で覚えてしまうように。特に ややこしいのが A 5~6小節目、ic.1~4小節目。フレーズの切れ目と 拍子がズレてしまい、どこをやっているのか分からなくなってしまう可 能性が大きい複雑な仕組みになっている。ここでは4+3=7拍子とい うとらえ方をやめて、フレーズの形を覚えてプレイするしかないだろう。 ID,からのエレビのバッキングは、エフェクトで面白い効果を出している。 ワウを使う時には、ペダルを踏むことによってリズムを乱さないように 注意しよう。」からはギター・ソロ。拍子も4/4拍子だけになり雰囲 気が変わる。ブルーノートを中心にチョーキングのタイミング等も実に ブルージーにまとめられたこのソロは、まさにロック・ギターのお手本 だ。是非完全にマスターしてもらいたい。また「」からは、それまではふ んだんに掛けられていたリバーブがなくなり、サウンド全体のイメージ を一変させている。Eからエレビのバッキングをやめてしまう等の効果 にも注目したい。ドラムとベースは特に3連のノリ(ハネる感じ)を合 わせられるように意識してプレイしよう。

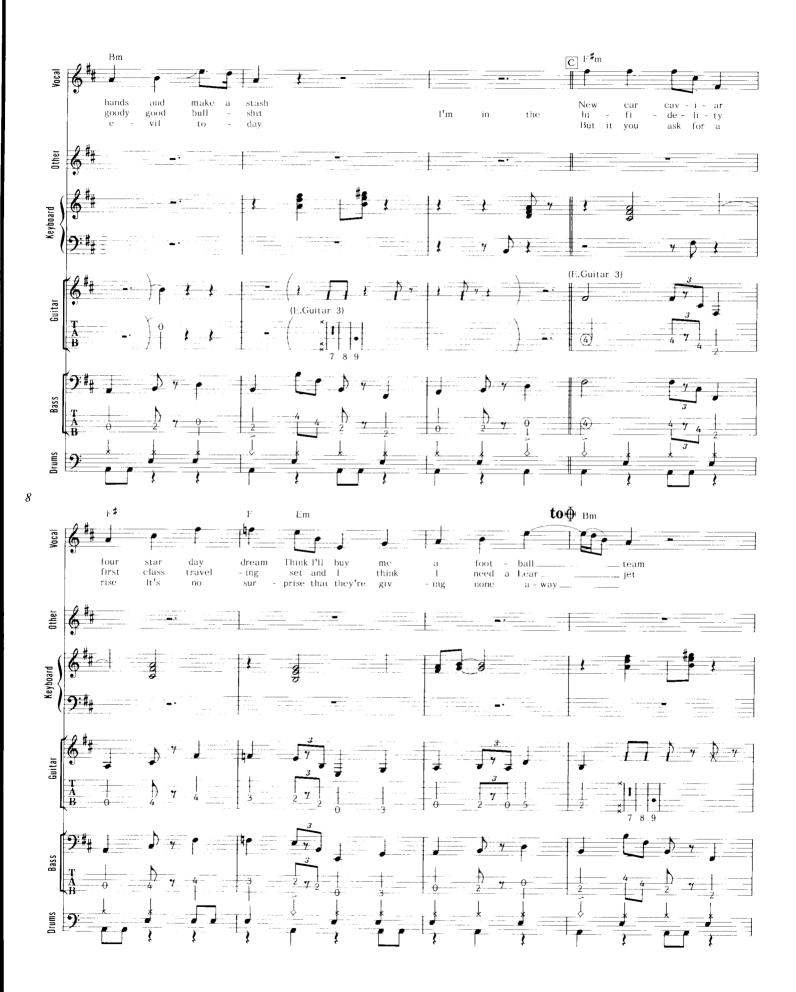


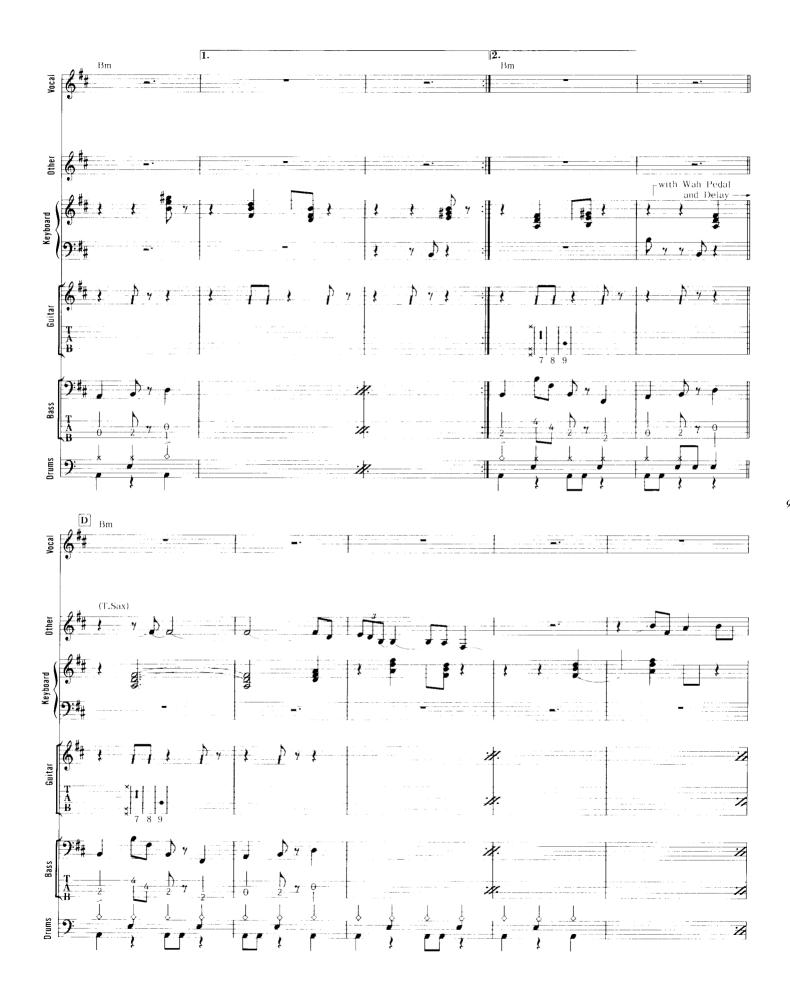
© 1973 by ROGER WATERS MUSIC OVERSEAS LIMITED. All rights reserved. Used by permission Bights for Japan administered by WARNER/CHAPPETT MUSIC, JAPAN K.K. c/o NICHION, INC





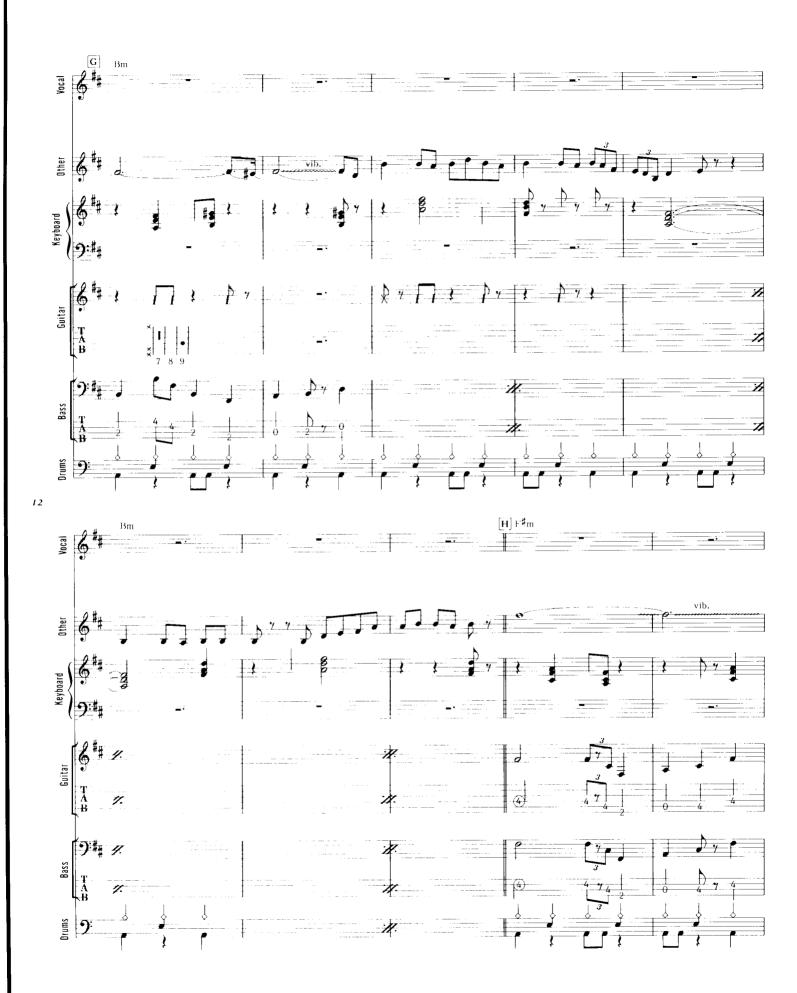




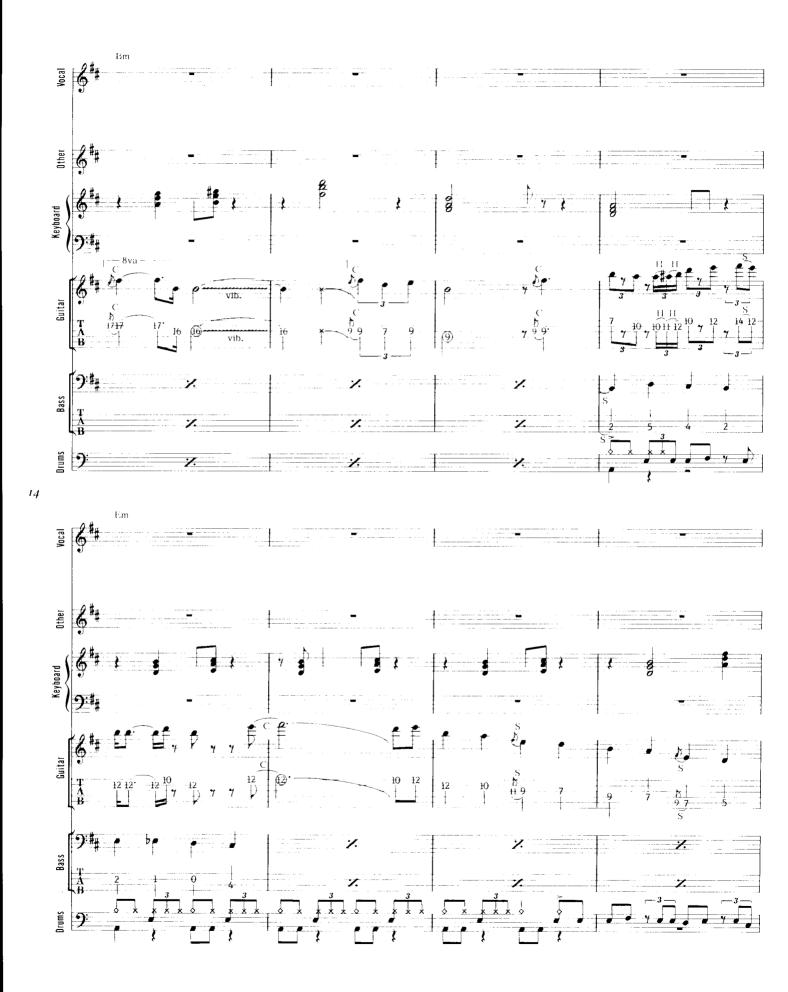














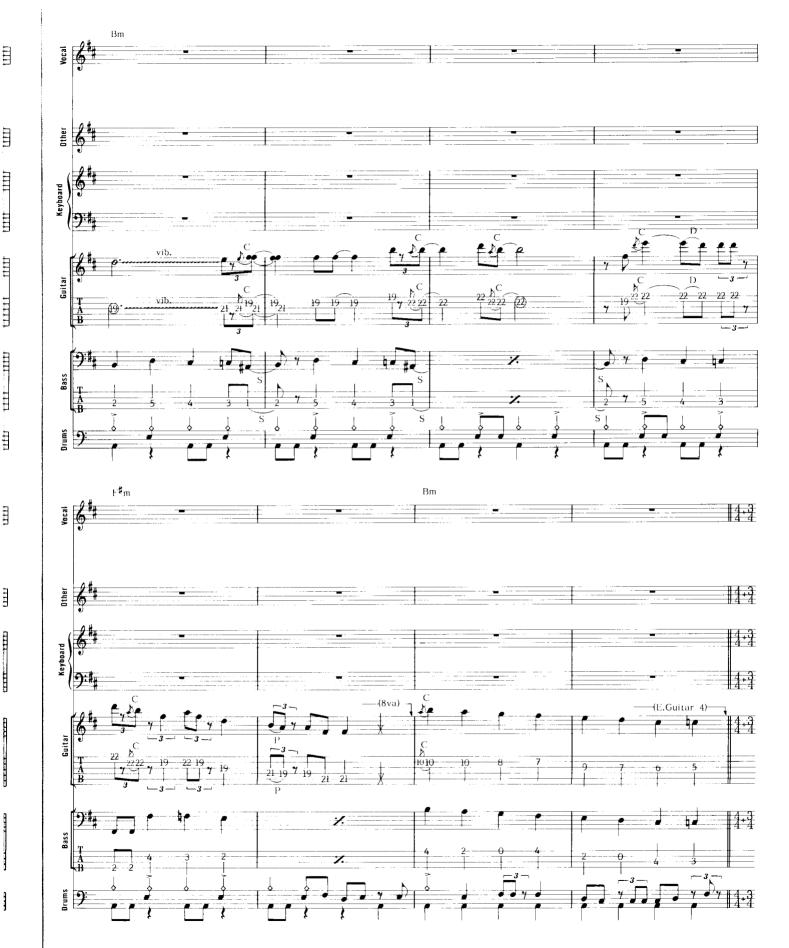


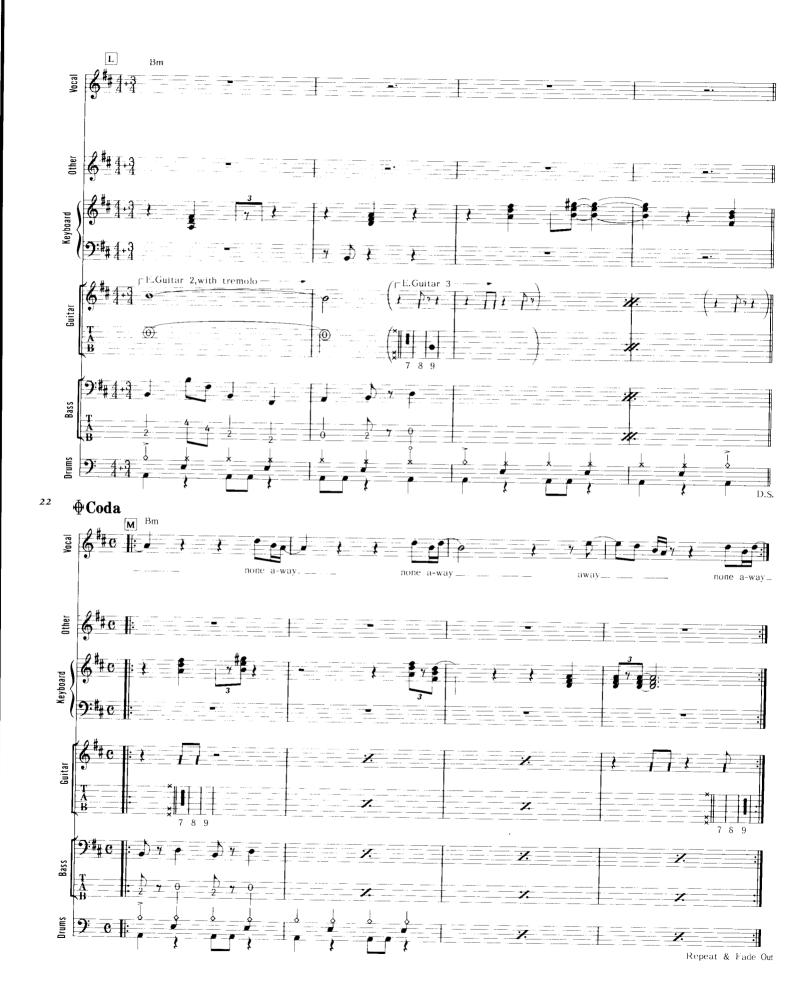












TIME

タイム

Words by Roger Waters / Music by David Gilmour, Rick Wright, Nick Mason and Roger Waters

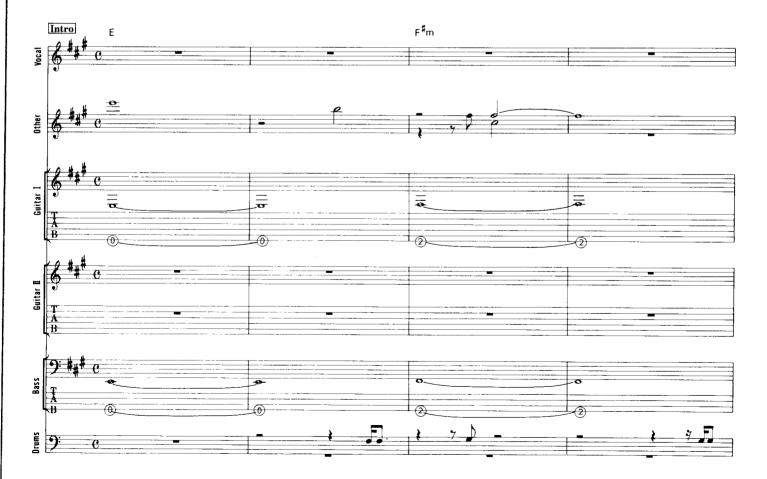
ピンク・フロイドの大ヒット・アルバム『狂気』に収録されているミ ドル・テンポでのロック・ナンバー。イントロのギターは、低音弦を中 心としたシンプルなパターン。ドラムをよく聴いてリズムが狂わないよ うに気をつけよう。|A|のバッキングはコードを中心にオブリガートを混 ぜていくというブルージーなアプローチだ。小気味よくカッティングし ながらノリをキープしていこう。|C|のGt-2はソロ・パート。1小節目の 4拍目のチョーク・ダウンは半音分だけ下げて、次に半音分チョーキン グするというパターンだ。4小節目の4拍目の2弦10fは中指で軽く クォーター・チョーキングを決めよう。9小節目の2拍目からの2弦17 fのチョーキングは薬指ではなく、中指で行なうと次の17fと19fのハ ンマリング&プリングがやりやすいだろう。10小節目の4拍目のチョー ク・ダウンも半音分だけダウンさせる。」のではスライド技を多用してい

Ħ

s.

Dut

るのでフィンガリングをよく考えてプレイしよう。「G|からは曲調が変わ り、リズムも16分のハネたものになっているので注意しよう。ベースは、 |A[|]ではかなり細かく動き回っているので、音使い&リズムに注意してプ レイしてほしい。オクターブを上手く使い分けてプレイしているのも特 徴的だ。また、休符をしっかり意識する事でフレーズにノリが出てくる という事も覚えておこう。|B[|]では反対に大きくゆったりとした感じで弾 こう。イントロのドラムはタムによるプレイ。しっかりテンボを把握し ながらでないと、他のパートも迷ってしまうので注意しよう。かなり高 い音の出るタムをいくつか用意出来るといいだろう。キーボードは基本 的にはエレビでのバッキングが中心で、シンセがコード感をフォローす るというパターンだ。



© Copyright 1973 by PINK FLOYD MUSIC PUBLISHERS LTD., London, England and ROGFR WATERS MUSIC OVERSEAS LTD Rights for Japan jointly controlled by Shinko Music Publishing Co., Ltd., Tokyo and Warner/Chappell Music Japan K.K. Authorized for sale in Japan only























run







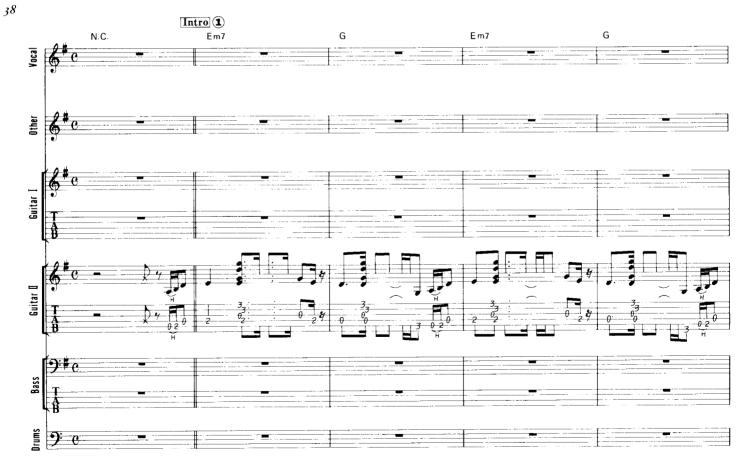


Ħ

WISH YOU WERE HERE

あなたがここにいてほしい Words & Music by David Gilmour and Roger Waters

ギターだが、Gt-Iはソロ等のフレージング中心のパート。Gt-IIはコー ド・ストローク等のバッキング・パートというようにまとめてある。 Intro(1)は印象的なアコギによるコード・ストロークで、5、6弦は鳴ら さないように。また、ストロークの中にあるフレーズが見えるようにピ ッキングをコントロールしてプレイすることが必要だ。1、2弦の3f を常に押さえておくというフォームもポイント。AのGt-Iは奥の方で微 かに聴こえるエレキ・ギターで、ヴォリューム奏法を使ってアタック感 を無くすと似た感じになると思う。また、もしかしたらボトルネックを 使ったスライド・プレイ(もしくはスチール・ギター)の可能性もある。 Flはギターのフレーズとヴォーカルのスキャットをユニゾンでプレイす る形。ベースはあまりパターン化せず、細かい部分で自由なラインを作 っていくアプローチが多い。細部までコピーするというよりは、ノリや ニュアンスを重視し、曲の雰囲気を盛り上げるようなプレイを心掛けた 方がいいだろう。ドラムは一応8ビートではあるが、ゆっくりとしたテ ンポなので、かなり16分の要素が強い。このようなテンポではリズムが 走りがちになるので、しっかりとしたリズム・キープをしよう。また、 ヴォーカルのない部分、特に[c]では弱めに叩き、曲のメリハリを付ける ようにプレイ出来ると良いだろう。



Ø Copyright 1975 by PINK FLOYD MUSIC PUBLISHERS LTD., London, England and ROGER WATERS MUSIC OVERSEAS LTD. Rights for Japan jointly controlled by Shinko Music Publishing Co., Ltd., Lokyo and Warner/Chappell Music Japan K.K. Authorized for sale in Japan only







E

Ē

4 I







E







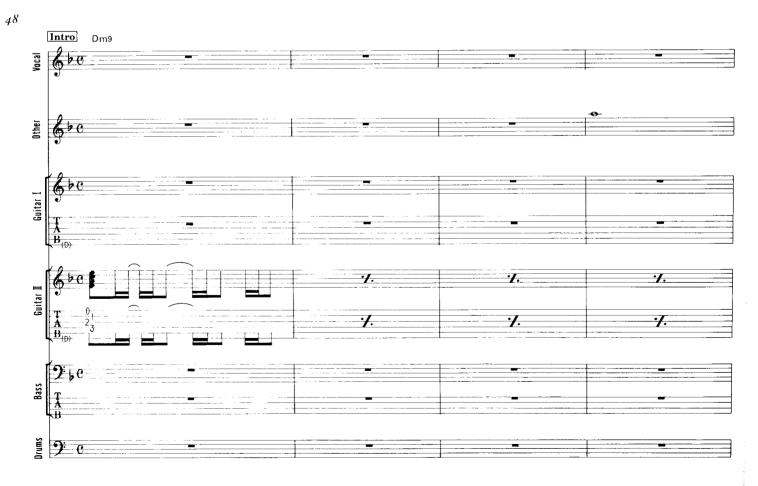


Ħ

DOGS

Words & Music by David Gilmour and Roger Waters

ビンク・フロイドにしては珍しくないが、17分にもおよぶナンバーな ので、予め構成をしっかり確認しておこう。イントロから始まるアコー スティック・ギターのカッティングは4種類のコードが出てくる。微妙 な音なので、それぞれの音使い&フォームに注意しておこう。このGt-1 はそのコード進行に上手く合わせた音使いでのソロ。スライドやグリス を使ってのポジション・チェンジ、フィンガリングに注目しておこう。 G|のGt-1はゆっくりしたテンポでの印象的なツイン・リード。フレーズ そのものは難しくはないが、チョーキングや音を切るタイミング等の表 情を上手く合わせるようにプレイしたほうがいい。」のGt-1の26小節目 からの3連フレーズはビッキング・ハーモニクスを出してトリッキー に。回のGt-1のソロの15、16小節目では1音間隔で降りていくフレーズ での3本のハモリとなっている。聴かせ所でもあるのでしっかりプレイ したい。ベースは、基本的にシンプルなアプローチではあるが、各セク ション毎でのフレーズのメリハリを考えよう。ドラムは、IC、回では通 常のパターンの他に、タムのみのフィルがダビングされているようだ。 通常のパターンに上手く組み込んでプレイしてもいいだろう。L からは テンポが変わり、6/8拍子になる。64小節間と長丁場だが、しっかり リズムをキープしていく事。



© Copyright 1977 by PINK FLOYD MUSIC PUBLISHERS LTD., London, England and ROGER WATERS MUSIC OVERSEAS LTD. Rights for Japan jointly controlled by Shiriko Music Publishing Co., Ltd., Tokyo and Warner/Chappell Music Japan K.K. Authorized for sale in Japan only



スイク通。せ





目





Ħ

Ħ

Ē

目





E





þ





目

B

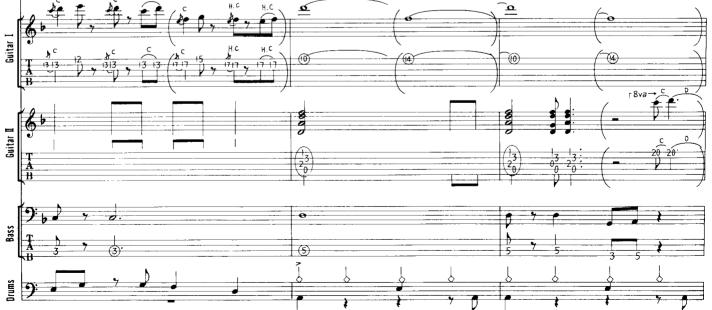
Ħ





İ







Ē

目

E

目





B

E

目

目





B

目



ť

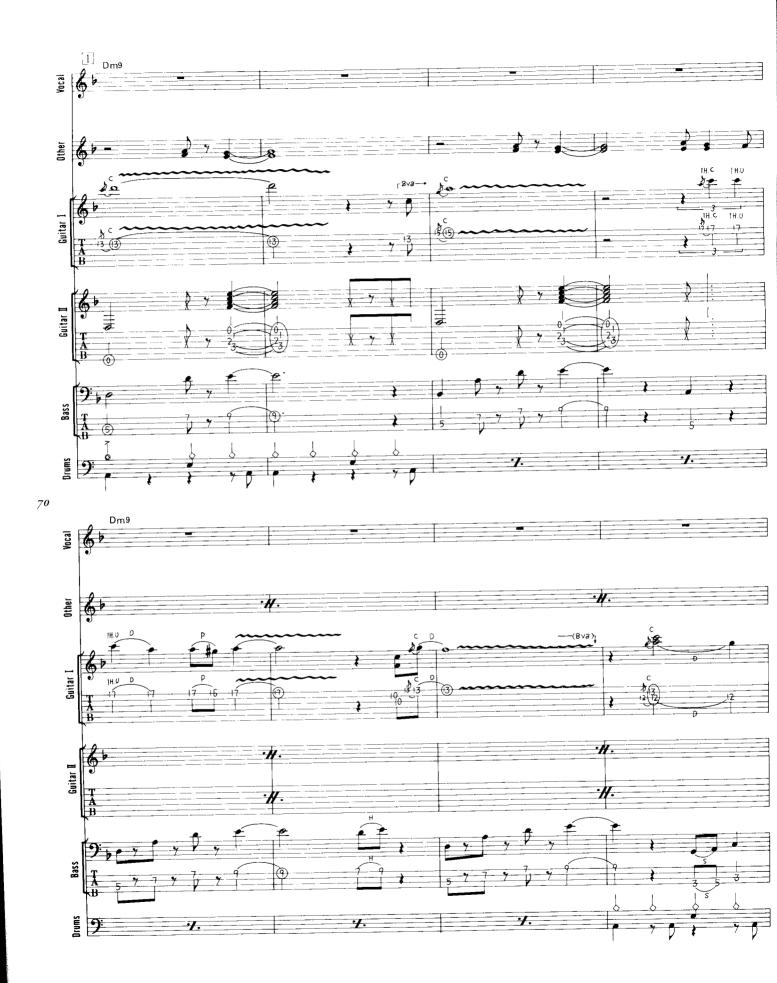
Puiter

Bass

Guitar I

Drums









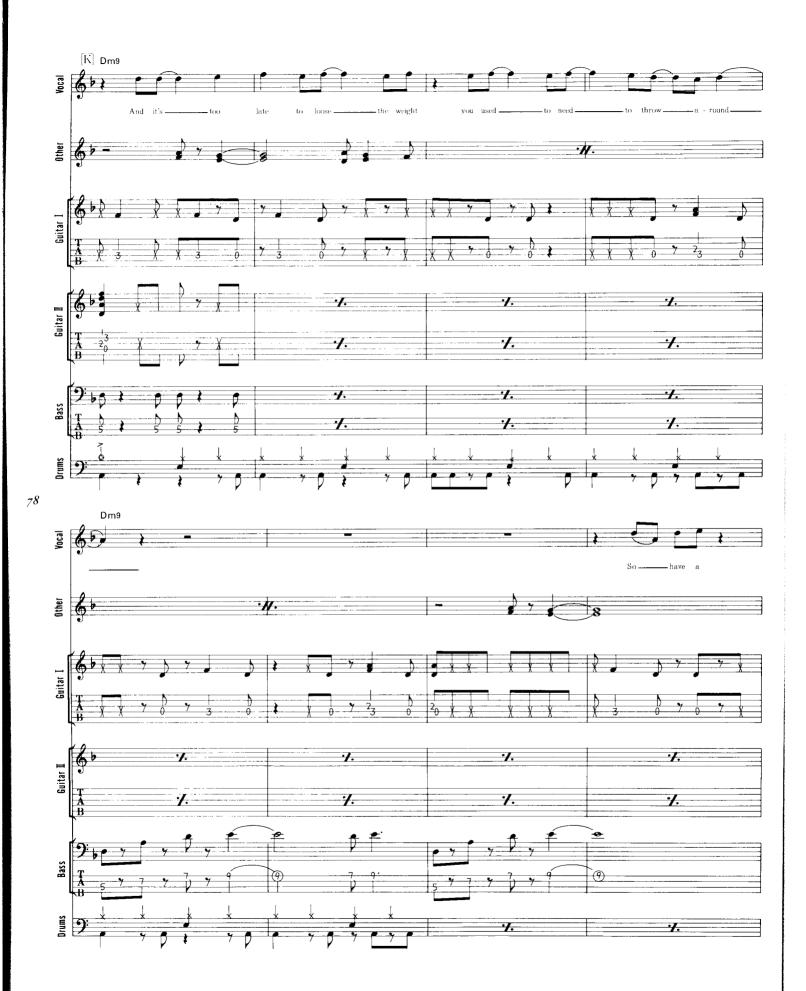




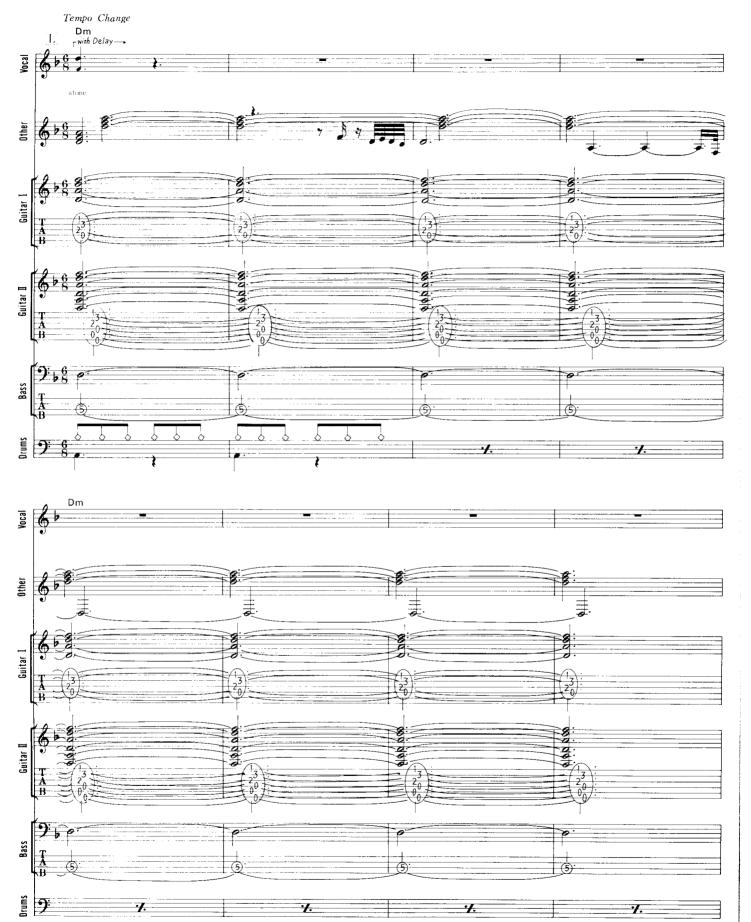












, et al.

Cuitar I

Race

Drume



E









目







Cuitar

Guitar II

Bass

Drums

ANOTHER BRICK IN THE WALL PART 2

アナザー・ブリック・イン・ザ・ウォール PART 2 Words & Music by Roger Waters

アルバム『ザ・ウォール』に収録されている、テーマ的なナンバー。 曲中、ギター・パートはバッキングのクリア・トーンでのカッティン グ・パートがLch、Rchに分かれてプレイされているが、都合上、Gt-1に Lchのパートを表記し、Rchの異なるプレイだけをGt-2のカッコ内に表記 してあるので注意しておこう。AのGt-1はメインとなるカッティングだ。 2 拍目のウラの4弦7fのA音はカッティングの間合いをとるために自 然と鳴ってしまうような感じのもので、X印的なものだと考えていいだ ろう。Gt-2はディストーション(もしくはファズ)でメロディをなぞる 形でのプレイ。Bの5、6小節目でのカッティングはリズムに注意し素 早くコード・チェンジするように。Gの2小節目の4拍目の最後の2弦 13fは2音でのチョーク・アップを決める。4小節目の3拍目、3弦10 f は中指、続く9f は人差指という形でプリング。8小節目の3拍ウラ

はチョップするような形。スウィープのように1回のダウン・ビッキン グでなでるようにしよう。10小節目の1拍目は、まず1音のチョーキン グをして、その状態から更にもう1音チョーキング、そして更にもう半 音のチョーキングで計2音半のチョーキングという形になる。ベースは、 この曲ではローD音が聴こえるので4弦だけを1音下げるドロップDチ ューニングでの表記となっているので注意しよう。全体的にゆったりと したリズムでのシンプルなパターンだが、休符をしっかり意識して歯切 れよくプレイしてほしい。ドラムはシンプルな8ビートを淡々とキープ していく形。6からはスネアが4拍目だけになるパターンになっている ので注意しよう。キーボードは6でのオルガンのコード弾きのみ、印象 的なコード進行なのでコードを間違えないように。















III



.











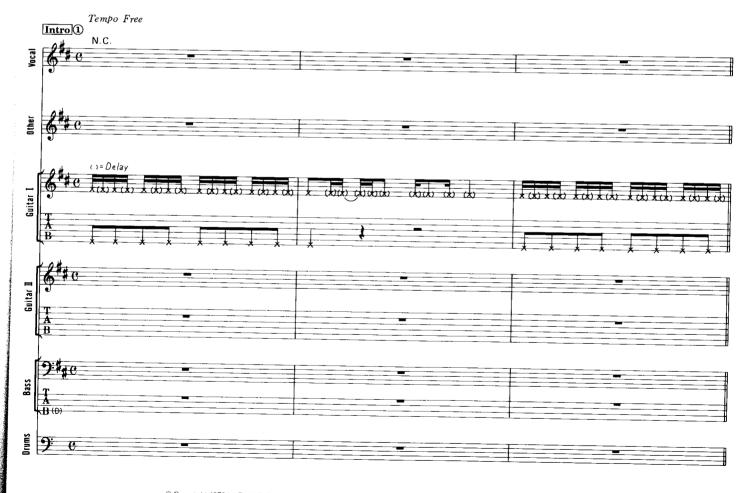


RUN LIKE HELL

ラン・ライク・ヘル Words & Music by David Gilmour and Roger Waters

アルバム『ザ・ウォール』に収録されたキャッチーなナンバー。ギタ ー・パートは、この曲では全編にわたりテンポに合わせたディレイ・エ フェクトが効果的に使われている。ディレイ・タイムをテンボのちょう ど符点16分のタイミングで遅れて聴こえるように386msぐらいにセット し、8分で弾くとディレイと混ざって16分のフレーズに聴こえるのだ。 この時、エフェクト・レベルも原音と同じぐらいになるように設定する のがポイント。フィード・バック・レベルは曲中で2、3回聴こえるぐ らいがいいだろう。で、諸面ではカッコ内の音がディレイ音で、タブの 符割が実際に弾くパターンとなっているので注意しておこう。イントロ 2のGt-2から本格的に始まるのだが、しっかりミュートしておくことも

大切だ。イントロ4のGt-1はテーマ的なコード・リフ。スムーズにコード・チェンジを行なうように。イントロ5や「AIでのGt-2はしっかりリズムをキープしないとグチャグチャになるので気をつけよう。ベースは、この曲でもローD音が出てるので4弦だけを1音下げたドロップDチューニングでの表記となっているので注意しよう。イントロやテーマ部分ではしっかり音を切って歯切れよくプレイしてほしい。ドラムはシンプルなパターンなので、そう問題はなさそうだが、ギターのディレイがズレないようにきちんとテンポをキープしていくようにプレイしよう。キーボードは「DI、」EIの間奏部分だけだが、テーマ部分のコードをフォローしてあげたりするといいだろう。



© Copyright 1979 by PINK FLOYD MUSIC PUBLISHERS LTD., London, England and ROGER WATERS MUSIC OVERSEAS LTD. Rights for Japan jointly controlled by Shinko Music Publishing Co., Ltd., Tokyo and Warner/Chappell Music Japan K.K. Authorized for sale in Japan only





























1.19